

# Journal of Toxicologic Pathology

オンラインISSN : 1881-915X

印刷ISSN : 0914-9198

ISSN-L : 0914-9198

[資料トップ](#)   [早期公開](#)   [巻号一覧](#)   [この資料について](#)

## 最新号

選択された号の論文の5件中1~5を表示しています

---

### 原著

#### 小さな実験動物を使用した獣医用ワクチンのバッチ安全性試験の病理学的分析

Kasumi Sudo, Mariko Ochiai, Naoyuki Aihara, Noriyuki Horiuchi, Atsushi ...

2021年 34巻 2号 p. 137-146

発行日: 2021年

公開日: 2021/04/16

[早期公開] 公開日: 2021/02/25

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0078>[ジャーナル](#)   [オープンアクセス](#)[抄録を非表示にする](#)

獣医用ワクチンのバッチ安全性試験（BST）は、臨床症状や体重の変化など、いくつかの基準に従ってワクチンの安全性を保証するために、小さな実験動物を使用して実施されます。後者はBSTの評価指標として使用されていますが、試験期間中に体重に影響を与える内部変化についての報告はありません。したがって、我々は試験動物の病理学的検査を介してBSTを分析した。ここでは、BSTは、マウスを使用して176バッチ、モルモットを使用して126バッチに対して実行されました。肉眼的所見のほとんどは4つの病変タイプ（結節、癒着、腹水、明らかな兆候なし）に分類でき、これら4つのタイプのいずれにも分類できなかった病変を誘発するワクチンは1つだけでした。組織病理学的検査により、BSTによって引き起こされた反応が化膿性および/または肉芽腫性炎症であることが明らかになりました。結節性または癒着性病変は、腹水または明らかな肉眼的病変のない症例よりも重度の化膿性肉芽腫性炎症を含んでいました。これらの結節性または癒着性病変は、アジュバントを含まないワクチンよりもアジュバントを含むワクチンによってより頻繁に誘発された。「例外的な」肉眼的所見を伴う症例は、組織学的に造血系の重度の壊死を示した。追加のテストでは、特定の種類の軽い液体パラフィンを他のワクチン添加物と一緒に注射すると、これらの「例外的な」病変が誘発されることが示されました。

[PDF形式でダウンロード \(4841K\)](#)

---

### 症例報告

## Crlj : CD1 (ICR) マウスの首骨格筋における自発性骨格外骨肉腫

Kanata Ibi, Shiori Chiba, Naomi Koyama, Kazuto Hashimoto, Hiroaki Neji ...

2021 年 34 巻 2 号 p. 147-150

発行日: 2021年

公開日: 2021/04/16

[早期公開] 公開日: 2021/01/18

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0083>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

骨格外骨肉腫は、ヒトや動物、特にげっ歯類では非常にまれです。これは、Crlj : CD1 (ICR) マウス (36週、死亡) の首骨格筋における自然発生的な骨格外骨肉腫に関する最初の症例報告です。剖検では、首の骨格筋 (斜角筋) に白い固い塊が見られました。組織学的検査は、腫瘍が非定型の多角形細胞、小さな類骨の塊、および骨組織からなることを示した。有糸分裂像が観察された。連続切片は、腫瘍性細胞が隣接する正常な骨格筋への明確な浸潤性増殖および正常な骨組織との連続性を欠いていることを示した。免疫組織化学的分析は、腫瘍性細胞がオステオカルシン、オステリックス、ビメンチン、およびS-100に対して陽性であることを示した。これらの結果に基づいて、

[PDF形式でダウンロード \(2424K\)](#)

## 局所注射された亜硫化ニッケルの眼窩への漏出によって引き起こされたラットの眼窩悪性神経鞘腫および胚性横紋筋肉腫

Yoshinori Yamagiwa, Miki Masatsugu, Haruna Tahara, Kotaro Yamada, Yu H ...

2021 年 34 巻 2 号 p. 151-156

発行日: 2021年

公開日: 2021/04/16

[早期公開] 公開日: 2021/02/27

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0079>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

亜硫化ニッケル ( $\text{Ni}_3\text{S}_2$ ) は、ラットの眼に硝子体内注射すると眼内腫瘍を誘発することが知られています。ここでは、おそらく局所的に注入された  $\text{Ni}_3\text{S}_2$  の漏出が原因で、2つの異なるラット系統で2つの眼球外眼窩新生物が見つかりました。外眼窩組織に、F344 / DuCrIcrljラットでは、注射後30週間で眼窩腫瘍が発生し、頭蓋に浸潤した。組織学的には、軌道塊は、細胞質の境界が不明瞭な密集した細長いまたは紡錘形の細胞によって形成された平行な束に配置された領域と、好酸球性粘液様物質の円形細胞からなる低細胞配列の領域で構成されていました。右顎下および頸部リンパ節に転移が観察された。腫瘍細胞はS-100タンパク質とビメンチンに対して免疫陽性でした。透過型電子顕微鏡は、腫瘍性細胞が細胞突起および細胞質周囲の基底膜を有することを明らかにした。RccHan<sup>TM</sup> : WISTラット、注射後36週間で眼窩腫瘍が発生した。組織学的には、腫瘍はラブドイド様の大きな円形細胞で構成され、小さな円形から多角形の細胞が増殖し、これらの腫瘍性細胞は外眼筋に浸潤していた。免疫組織化学的に、腫瘍性細胞はデスミンとビメンチンに陽性でした。透過型電子顕微鏡は、これらの腫瘍性細胞の細胞質にZバンド構造を持つ未成熟な筋原線維を検出しました。その結果、腫瘍は、F344 / DuCrIcrljラットでは眼窩悪性神経鞘腫、RccHan<sup>TM</sup> : WISTラットでは眼窩胚性横紋筋肉腫と診断されました。この症例報告の結果は、Niの漏れ示唆  $\text{Ni}_3\text{S}_2$  眼窩への移行は、ラットに眼窩悪性神経鞘腫または横紋筋肉腫の誘発を引き起こした。

[PDF形式でダウンロード \(4967K\)](#)

## 若年成人のメダカ (*Oryzias latipes*) の浮き袋腫瘍

Satoshi Furukawa, Yumiko Hoshikawa, Kota Irie, Yusuke Kuroda, Kazuya T ...

2021 年 34 巻 2 号 p. 157-160

発行日: 2021年

公開日: 2021/04/16

[早期公開] 公開日: 2021/02/28

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0088>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

22週齢のメダカ1頭で浮き袋腫瘍が検出された。腫瘍は背側腹腔内にあり、最大寸法は1,850×1,500 μmでした。浮き袋の内腔は特定されず、浮き袋の内腔が配置されていたはずの領域が脂肪組織に置き換えられました。腫瘍は、非侵襲的で拡張性があり、いくつかの嚢胞を伴うカプセル化された固形塊であり、高分化型で密集したガス腺上皮様細胞の均質な集団を含んでいた。腫瘍塊は、過形成性毛細血管叢を示した奇網に関連していた。しかし、腫瘍細胞は奇網に侵入しなかったため、腫瘍は浮袋のガス腺上皮に由来する腺腫であることが明らかになりました。

[PDF形式でダウンロード \(2085K\)](#)

## テクニカルレポート

### 免疫組織化学の技術的側面のデータベース：2021年更新

Takayasu Moroki, Saori Matsuo, Hirofumi Hatakeyama, Seigo Hayashi, Izu ...

2021 年 34 巻 2 号 p. 161-180

発行日: 2021年

公開日: 2021/04/16

[早期公開] 公開日: 2021/02/25

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2021-0006>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

免疫組織化学 (IHC) の技術的側面に関する情報を共有し、組織病理学的検査に適した抗体の選択を容易にすることを目的として、このテクニカルレポートでは、2018年から2019年の間に実験会議のメンバーに配布されたアンケートの結果について説明します。動物の組織病理学。さらに、免疫学的特性とサプライヤーの詳細 (クローン、サプライヤー、カタログ番号、種の反応性など)、およびIHC染色条件 (固定液、固定時間、埋め込み、抗原検索方法、抗体希釈、インキュベーション時間、インキュベーション温度、陽性対照組織、ブロッキング条件、二次抗体情報など。) 合計509の一次抗体 (220の異なるタイプを含む)。これらの調査結果は、2017年にCEAHによって報告された内容の更新でした。

[PDF形式でダウンロード \(12351K\)](#)

編集・発行：日本毒性病理学会  
制作・登載者：株式会社アイペック

Google translation / A&E trial